

赤米ニュース

第289号

(2021年4月30日)



東京赤米研究会

〒186-0005 東京都国立市西3-7-29 アゼリア国立2-101 長沢方 (Tel.042-577-6855)

4月の赤米作り-----	2308
おしらせ-----	2311
おたより-----	2313
表紙解説：江戸東京ゆかりの植物④—ソメイヨシノ—	2314

[2021 年版赤米栽培マニュアル]

4月の赤米作り

●今年もいよいよ赤米作りが始まります

皆さん、お元気ですか？。ようやく4月になりました。桜の花も、もうすぐ咲きます。今年もまた新学期・新年度が始まり、いよいよ春爛漫の季節を迎えることとなりました。赤米作りも、また始まります。皆さん、準備はよろしいですか？。今年もおおいに張り切って頑張り、たくさん収穫をあげましょう！。

とはいうものの、実はまだそうあわてることもないのです。すっかり赤米のことを忘れてしまっておられた方々も、まだまだ間に合いますし、4月の赤米作りの作業は、まだほんの準備段階が始まるに過ぎないので、まったく大したことはありません。なかなかエンジンのかからない方々は、ぼちぼちその気になってもらい、ゆっくり作業に取り掛かっていただいで結構です。最初はあせらず、気長にやってみましょう。最初の作業は、本当に簡単な準備仕事だけで、まったく簡単なことですから、あまり面倒臭く思わないで下さい。

●赤米栽培マニュアルについて

皆さんにはこれから半年間、例によって本誌誌上において毎月、「2021 年版赤米栽培マニュアル」をお届けしますので、毎月の作業の参考にしていただきたいと思います。今年度版栽培マニュアルは、昨年度のものを一部分あらためてありますが、大きな改訂箇所はほとんどありません。去年のやり方の通りに繰り返してみても結構ですので、もう一度思

い出しながら、やってみていただきたいと思っております。また、昨年度の失敗経験や反省・教訓を、おおいに活かしながら、いろいろな応用をためしてみることも、とても大切です。

ここでの栽培マニュアルに必ずしもこだわることなく、皆さんご自身でおおいに創意工夫をくわえ、どんどん新しいところにもチャレンジしていただきたいものです。また、その成果をぜひ本会まで、どんどん報告していただきたいとも思っています。試行錯誤もまた、得がたい貴重な経験です。反省や教訓を積極的に取り入れて、マニュアルをどんどん改訂し、よりよいものに作り変えていきましょう。よろしくご協力のほど、お願い申し上げます。

さて、いつものごとく、あらかじめお断りしておくことにしますが、これからここで述べていく赤米栽培法の基本手順は、都市部の集合住宅に住む非農家の一般市民が、あくまでもひとつの趣味として赤米栽培をおこなうために用意されたものです。それは、本格的な水田圃場を用いてなされるものではなく、その代替手段としての、いわゆる「バケツ栽培」もしくは「プランター栽培」のやり方での、赤米の栽培方法をまとめてみたものです。いわばそれは、「都市型小規模稲作栽培」のための技術テキストといってもよいことでしょう。したがって、中～大規模に本格的な水田栽培をこころみられる方々は、ここでのマニュアルを、その基本事項のみ参考にしていただいで、それ以外のくわしい専門的な問題は、ぜひ稲作りのプロフェッショナルである農家の方々におたずね下さい。私たちはいつも、そのようにおすすめしています。

ベランダ栽培と水田栽培とでは、根本的に

作業手順や育成技術が異なります。それは、アマチュアとプロとの違いでもあります。逆に、ベランダ栽培をこころみる方々は、あまり農家のアドバイスが参考にならない場合もあります。なぜならば、私たちの栽培する赤米稲は、ほとんど品種改良ということがなされていない、いわゆる「古代稲」ですので、野生植物に近い生態的特徴を持っており、人工的な育成環境に高度に適応した現代の稲の育て方に関する経験や知識が、あまりあてはまらない面もあって、通常の稲と同じように育てたために、逆に失敗するというケースもよくあるのです。その点もぜひ、ご注意願いたいと思っております。

●ミニ田んぼの準備

では、さっそく4月の農作業について述べていくことにしましょう。種まきの準備などの、具体的な作業は5月から始まりますので、4月についてはとりあえず、土の準備ということのみに、とどめておくことに致しましょう。

まずは「ミニ田んぼ」を準備します。私たちはベランダや庭などに置かれた、バケツ栽培用・プランター栽培用の施設を、「ミニ田んぼ」と呼んでいます。まずはこれを用意しなければなりません(写真1・2)。ミニ田んぼは、容器に土を入れて作りますが、その際に用いる容器は何でもかまいません。園芸用のプランターでもよいですし、廃品のポリバケツや水槽・タライ・ベビーバスなどでも応用できます。水が漏れず、土を深く入れることができれば、何でもミニ田んぼに用いることができるのです。

ポリバケツは水漏れもなく、土を深く入れることができるうえに、移動もさせやすい

ので、もっとも適した容器といえるかもしれませんが、あまり多くの苗を植えることができない点が短所でもあります。一方、発泡ス



写真1 バケツ栽培



写真2 プランター栽培

チロール製の「トロ箱」は、形が四角形なので無駄なく苗を植えることができ、場所も食わずにいくつも並べることができる点がすぐれています。断熱効果も高く、これまた非常に適しています。魚屋さんやスーパーなどに行けば、いくらでもタダで分けてもらえますので、入手も楽です。園芸用のプランターを用いる場合、底に簧の子のあるタイプと、ないタイプとがありますが、なくて結構です。簧の子付きのものの場合、それをはずして使って下さい。横についている排水孔は不要なので、ふさいでしまってください。

わざわざそのために容器を買ってこなくても、赤米栽培は可能ですし、いらぬ廃品を再利用すれば十分です。何の容器でも使えますので、物置の中に眠っている無用の長物を探してみましょう。なおミニ田んぼの利点は、そのポータブルさにもあります。台風などで暴風雨が予想される時などは、田んぼ（容器）ごとそっくりそれを屋内に避難させることができます。そのためにも、できれば移動できる大きさと重さの容器を選ぶとよいでしょう。あまり大きな容器を用いますと、重くて運べなくなりますので、気をつけましょう。

●土の準備

ミニ田んぼの容器が決まりましたら、そこに土を入れます。土の深さは20～25cmほどにしますが、あまり浅すぎないように注意をし、最低でも15cmは入れて下さい。初心者の失敗の原因を探してみると、土が浅すぎたという例がもっとも多く、稲が根をしっかりと張ることができないために、苗がよく育たないケースがほとんどです。ぜひ、気をつけるようにしましょう。ポリ・バケツを用いる場合の土の入れ方は、図1のようにするとよいでしょう。

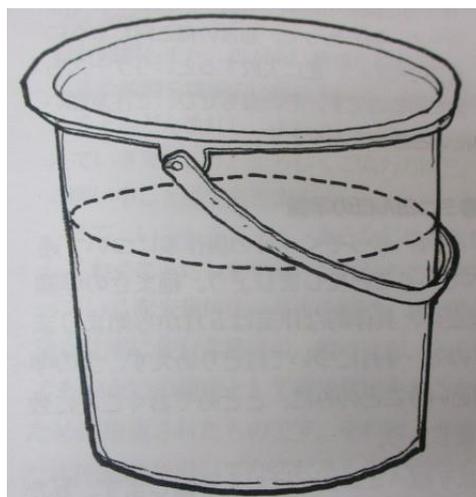
土は野外で採取してくればよいのですが、農家に頼んで水田や畑の土を少量いただくのがベストです。山土よりは低地の泥質の土の方が、乾燥しにくいので適していますが、どんな土でも稲を作れないということはありません。まったく土のない市街地におすまいの方々には、園芸店やホームセンターなどについて、袋入りの土を買ってきて下さい。それほど高いものではありません。ついでに肥料も買ってきてよいでしょう。

肥料は堆肥がもっとも適していますし、有

機栽培をこころみることができます。堆肥も園芸店で売っています。堆肥・鶏糞・骨粉などを混合した固形肥料も、非常に効果的です。もちろん化学肥料を使用してもかまいませんし、特に有機栽培ということにこだわらない

図1 バケツ栽培の土の入れ方

（点線の部分まで土を入れる。3分の2までの深さにするのが望ましい）



方々は、おおいにそれを用いるべきでしょう。とはいえ、肥料は必ず与えなければならないというものでもなく、まったくの無施肥でも赤米は結構よく育ちます。逆に、肥料をやりすぎたために失敗するということがよくあるのです。

肥料は必ずしも必要不可欠なものではありませんが、米の収穫量をあげるためにはやはり必要ですので、慣れてきたならばごく少量、与えてみてもよいと思います。肥料を与える場合、容器の底の方に少量入れ、上に土をかぶせていき、肥料と肥料分のない土とが

混じり合わないようにします。要するに、苗の根が直接、肥料に触れることのないように心がけ、ジワジワと肥料分が土中にしみ出して、間接的に効いていくようにしてやるとよいのです。

次に容器に水を張りますが、ホースではなくジョウロなどで、そっと少しずつ水を満たしていき、土をかき回さないようにします。また、地表面を平らにならし、水位と地表面とが一致するようにします。地表面が完全に水没するようでは、水が多すぎます。その後、水が多少乾いてもかまいませんが、つねに土に一定の湿り気が、たもたれるように配慮します。このようにして土と水とを、よくなじませておきます。この作業は、種まきの直前にやるのではなく、ぜひ4月中に済ませておきましょう。一定の期間を置いた方がよく、特に肥料を与える場合、肥料と土とを時間をかけてなじませておくといよいのです。

昨年度に赤米を栽培したミニ田んぼをお持ちの方々には、昨秋の稲刈り以来、そのままの状態になっていることと思いますが、やはり春のうちに一度シャベルで土をよく掘り起こして耕し、十分に空気を土中に入れて、土塊を細かく砕いておくことが必要です。農家でいえば、これは春の荒起こしにあたります。その際に、土中に残っている昨年の稲の根株は、そのまま細かくほぐして土中にすきこんでしまっても結構ですが、わずらわしいということであれば、全部取り除いてしまってください。

さあ、4月中の作業はここまでです。次回は、種まきについて解説しましょう。赤米作りの準備のできたミニ田んぼは、よく日の当たる所に出しておいて下さい。2ヶ月後には、そこに青々とした早苗が並ぶことになります。

楽しみですね。それでは5月にまた、お目にかかりましょう。

おしらせ

●第80回記念水彩連盟展

国立新美術館（東京都港区六本木7-22-2・TEL03-6812-9921）で、第80回記念水彩連盟展が開催されます。会期は3月31日（水）～4月12日（月）、会場は3階展示室3A・3Bとなっております。当会会員の高橋寿子さんの作品、「夢想曲」も出展されます。F100号の作品で、咲き誇る花々とともに赤米稲も描かれています。ぜひ、おいで下さい。

●赤米畑の土壌調査

国分寺赤米会では一昨年来、武蔵国分寺跡の赤米畑で武蔵国分寺種赤米稲の栽培を続けてきましたが、残念ながら稲の生育状況はあまりかんばしいものではなく、収量も低迷して不作が続き、苦戦を強いられています。そこでその原因をはっきりさせるために、昨年は東京農工大学の豊田剛巳教授に調査を依頼し、土壌成分や線虫の有無などを、くわし



土壌調査データを記入する猪浦さんです



使用した pH メーターと分析キットです

く分析していただいたとのこと。その結果、土壌の pH 値が高くて栄養不足気味であることなどがわかり、それを受けて赤米会では本年の年明け早々、大量の堆肥や硫黄を畑に投入して、土壌改良をこころみてきました。本年はさらに、赤米会として独自に自主的な土壌分析調査をおこなっていくこととなり、pH と伝導率 (EC) の測定機器を導入して、

圃場内の定点観測を実施していくこととなりました。その初回の調査が本年3月16日(火)にさっそくおこなわれ、メンバー6人が畑に集まって、分析・検査がこころみられました。赤米畑の圃場は南北23m、東西10mの長方形をしておりますが、前図に見る通り、南側の「①現状維持エリア」、中央の「②硫黄散布エリア」、北側の「③二期作エリア」の三エリアに分けられます。土壌調査地点は①から2ヶ所(1-1・1-2)、②から6ヶ所(2-1~2-6)、③から1ヶ所(3)の計9ヶ所が設定されており、図中に示す通りです。

各地点からは10gずつ土壌試料を採取し、その1.5倍量の水を加えて攪拌して、30分後にpHメーターでpH値を測定します。あわせて伝導率(EC)も測りました。こうして得られた今回の土壌分析結果を、次表に掲げておきますが、ここには3月11日(木)におこなわれた豊田教授による調査結果も、あわせて表示されております。

見ての通り、pH値は全地点で7.0を上回り、アルカリ性に傾いていて、特に②のエリアで7.4~7.5に達していますが、硫黄散布に

調査地点位置図

(二期作エリア)	N
●3	↑
(硫黄散布エリア)	
●2-6 ●2-5	
●2-4 ●2-3	
●2-2 ●2-1	
(現状維持エリア)	
●1-2 ●1-1	↓
	S

注) 上が北。畑の大きさは南北23m、東西10mの長方形。●が調査地点。

分析結果一覧

地点	pH		EC (3/16)
	(3/11)	(3/16)	
1-1	7.6	7.2	280
1-2	—	7.3	214
2-1	7.5	7.4	268
2-2	—	7.4	303
2-3	7.8	7.5	306
2-4	—	7.5	294
2-5	—	7.2	220
2-6	7.8	7.4	280
3	—	7.2	330

よる効果も出ていて、少しは改善されているようにも見えます。①・②エリアについてはpH 値も割合低く、予想通りの結果ではないでしょうか。赤米会では今後とも、土壌の定点観測を続けていくとのことです。

おたより

●再度トライ！（高橋寿子）

『赤米ニュース』有難うございました。昨年失敗し、今年は断念しようと思っていたのですが、再度トライしたくなりました。総社種赤米を 10 粒程おねがい致します（3/11：東京都国分寺市）。

●種粃をお願いします（富村隆子）

花だよりもま近となりました。ご健勝のことと存じ上げます。私達赤米セミナーも、そろそろ準備をと考えております。お送り頂いております『赤米ニュース』を参考にして、今年こそ栽培を成功させたいと願っております。つきましては種粃を頂きたく、武蔵国分寺種をバケツ 15 個、会員自宅用 10 名分をお願い致します。今年もご指導賜りますよう、お願い申し上げます（3/15：東京都国分寺市）。

●桐生砂での栽培結果（武藤 功）

昨年の自宅での赤米作りで、実験的に「桐生砂」を用いた栽培をためしてみました。桐生砂とは群馬県桐生市産の砂で、火山性の砂礫が風化してできた黄褐色の砂です。通気性と水はけの良い砂で、山野草や多肉植物の栽培によく用いられています。バケツの底に砂利を入れ、その上に桐生砂を敷いて赤米稲を植えてみましたが、右の写真のうちの上は発



芽直後の様子です。8月1日に播種をおこないましたが、苗はよく育っています。手前のバケツが桐生砂を用いたもの、奥のバケツは畑の黒土を用いたものです。真ん中の写真は8月23日現在の様子で、桐生砂使用の方がよく生長しており、違いが出てきました。下の写真は苗がすっかり大きくなった10月15日の状態で、桐生砂使用の方が圧倒的に生育良好で、畑黒土使用のもの2倍くらいに茎が伸びています。籾の収量も同様で、比較になりません。桐生砂の効果が証明されたのではないのでしょうか(3/16:東京都国分寺市)。

●赤米はおにぎりに(高橋寿子)

早速、総社種赤米の種籾をお送り頂き、有難うございました。今年は肥料過多にならないよう、育てようと思います。赤米は白米とまぜて炊き、おにぎりにして友人と一緒に賞味しようと考えています。お祝いしたいことがあるのです(3/17:東京都国分寺市)。

●赤米キーマカレー登場!(長沢利明)

「お鷹の道」沿いにあるカフェ・レストラン、「おたカフェ(東京都国分寺市西元町1-13-6・TEL042-312-2878)」で提供されている赤米料理のうち、「赤米スープカレー」についてはすでに紹介しておきましたが(本誌288号参照)、今回は「赤米キーマカレー」を取り上げてみたいと思います。正式には「あめ色たまねぎのキーマカレー」といい、その名の通り餡色になるまでじっくり炒めたオニオンに、挽肉・トマト・ナスなどを加えて煮込んだ、本格的なインド風カレーライスです。カレー・スパイスは、当店独自のブレンドによるもので、それほど辛くはなく、実にバランスのよい調合割合となっております。ライ



赤米キーマカレー

スはもちろん赤米入りで、赤い粒々がとてもきれいです。価格は単品で830円、ドリンク付きセットで1100円となっています。私の考えでは、今まで「おたカフェ」で出されてきた各種の赤米カレーライスの中で、このキーマカレーが一番おいしいと思います。桜見物でお鷹の道を散策におとずれる際には、ぜひお立ち寄りいただき、試食してみてください(3/20:東京都国立市)。

【表紙解説】江戸東京ゆかりの植物④—ソメイヨシノ—

ご存じソメイヨシノは、日本中でもっとも多く栽植されている代表的な桜だ。幕末の頃に江戸北郊の染井村で生み出されたので、ソメイヨシノ(染井吉野)と名づけられた。オオシマザクラ・オオヤマザクラ・エドヒガンザクラなどの交配種ではないかといわれている。生長が早く、枝は横に伸び、花をたくさんつけるのが特徴なのだが、寿命が短いのが欠点で、現在東京都内に植えられているものは、そろそろ植え替え時を迎えている。今後はもっと寿命が長くて樹高が低く、ピンク色の花をたくさんつけるジンダイアケボノ(神代曙)が、主流になっていくものと思われる。ジンダイアケボノは、調布市の神代植物園で偶然生み出されたスーパー品種で、ソメイヨシノの後継種として、未来の東京の街に咲き誇ることだろう。